

頼成地名考

各集落の名称について

頼成・徳万遺跡発掘調査がほぼ終わり、中世期の遺構、遺物が発見されましたが、もともと頼成地域にはそれ以前の奈良、平安頃から、東大寺の墾田や徳大寺の荘園がありましたから、その後の時代の物が出て別々に驚くにはあたりません。むしろ東大寺伊加流伎庄や徳大寺般若野庄につながるものが出土しなかったことの方が意外でもあり残念でもありません。地域の関心が少し昔のことに向けられたおりに、頼成各集落の名称の成り立ちについて考えてみたいと思います。

坂東

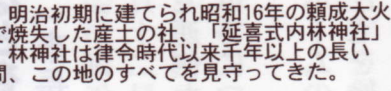
「番頭」の名田（みょうでん）があり「番頭名（パンドメ）」と称していたものが、「坂東」となったのではないか。

都に住む荘園領主が、地方の領地に番頭をおき、それを通じて間接的に支配や年貢の徴収を行った。これを番頭荘園と呼んでいる。かつて頼成にあって、今は高山市に転じた勝久寺の本尊絵像の裏書きに「般若野番頭 法名円通」との記載があることなどから、この説にはかなり信憑性があると思われる。

正覚・善導

これらはいずれも仏典に出てくる言葉であり、中世、信仰心の篤い在地の名主が、自分の差配下の土地に、仏典から取った言葉を地名として冠したものでないか。

ちなみに正覚という言葉は無量寿経の四十八願の終わりごとに「不取正



火神長い頼成大社、大内式以上、頼成神社、16年延喜、和延千守、昭代見、社令す、建土の、初期は、初社地、治失神、明焼林、間、の

覚」として出てくるほか、菩薩の悟りのことを「阿耨多羅三藐三菩提」とか「無上正等正覚」（略して単に正覚と言う）など仏教用語として広く使われている。また善導は正信偈の中に「善導独明佛正意」として出てくるが、これは七世紀中国に実在した高僧で、親鸞が選んだ浄土真宗七高僧の一人である。

北明

まったく不明で推論の域を出ないが、番頭の名田の北側に位置することから考えて、もともとは番頭の「北の名」と称しており、それが北名（きため）となり、いつの時代にか北明と誤記され今日に至ったのではないか。

地名の末尾に「明」とつくのは、もともとは「名」であったと考えられる例が少なくなく、あとで述べる公文名の場合も、かつて市の公文書でさえ公文名と誤記されていたことがある。そんなことと考え合わせて、北明もおそらく北名が本来の地名であったのではないかと推測される。

川原 西川原

地名の中で最も多いのは、その土地の地形に由来するもので、川原、西川原は文字通りかつて庄川の氾濫原中か、もしくはそれに近接していた川原であったところから、そのように称されたものであろう。

公文名

荘園を管理する役職である公文（くもん）の名田があったことから「公文名」と称した。公文と表記するのは誤りである。

公文（くもん）とは、本来は律令制における公文書の総称であり、転じてこうした文書を取り扱う官吏の事も指した。後世においては公家や寺院、荘園でも重要文書やそれを扱う担当者（の事を指した。なお、文書である公文の保管所や担当者の勤務場所を「公文所（くもんじょ）」と呼ぶ。

季節のうた

着膨れてなおも蠅の洒落どころ

坂東そとい句集「柿の花」より

追記 この項には資料の裏付けがなく推測の域を出ない部分が多いこともあります。異論、反論、資料などお持ちの方は、ぜひ光寿会広報委員会にご連絡またはご教示ください。（連絡先電話三七〇三五六 広報委員会事務担当武部幹夫）

徳万頼成遺跡の現地見学など



第19回地域巡り

般老連・公民館 共催の第十九回地域巡りが、折悪しく雨の降る十一月十一日に実施されました。

今回はいま調査の進む徳万頼成遺跡の現地や、新装なった般若幼稚園の見学などが行われました。発掘調査の現場では六十人近くの人たちが市

教委野原大輔学芸員の説明を受けました。概要は当広報が先月号で報じた通りなので省略します。幼稚園では長瀬春美園長の案内で園内を見て回りました。

その後、坂井晋輔さんが

会員の慶弔

林 成憲 様

砺波市表彰・地域振興 長期にわたり自治会委員長などの要職を通じ、地域の振興に寄与されました。

弔事

林 甚作 様

十一月十一日死去 享年九十四歳 謹んでご冥福をお祈りします



キウイ園で坂井さんの説明を聞く

営経 移動し、雪害、風害などど闘いながら苦労して栽培しているというお話を聞きキウイ狩りを楽しみました。



# 老人ホーム建設などを要望

## 市老連の「市長と語る会」

市老人クラブ連合会が毎年行っている「市長と語る会」が、十一月十二日、ロイヤルホテルで開かれました。市老連側から、老人ホームの建設や個人情報提供等について要望・提案などがありました。

市長からは、老人ホームの新設は難しいが経費型の老人向け市営住宅を検討したい、個人情報の提供は困難などという答弁がありました。当会からは林成憲会長が参加いたしました。



# らんじよ浮世亭

11月は藤山寛美爆笑劇場の第3回「浪速の鯉の物語」を大画面ビデオで上映し、みんなで大笑いを楽しみました。

「笑う門には福来たる」いづれ第四回を上映しますが、その節はぜひ笑いに来てください。午後の書写・朗誦の集いは平安女流文学の名作「枕草子」取り上げました。四季おりおりの美しさを端的に表現した名文を堪能しました。

**次回は12月19日(水曜日)です**

10時すぎより、席亭(林博)の話「道話三題」を予定しております。ご来亭をお待ちしています。

春はあけぼの。ヤウヤウし  
ろくなりゆく山ぎは、少しあ  
かりて、紫だらたる雲の細く  
たなびきたる。  
夏は夜、月のころはさらな  
り、やみもなほ、雲の多く飛  
びらがひたる、また、ただ一  
つ二つなど、ほのかにうら光  
りて行くもをかし。



は翌年のお祝いとなります。そのため文中の方々と、八日の忘年会でお祝いする喜寿の方とは一致しませんのでご諒察下さい。

総力戦遂行のため国家的人的・物的資源を政府が統制運用できるという国家総動員法が成立した昭和十三年四月、一般若小學校に入學した人たちが、今年喜寿を迎えられました。

七十年前の記念すべき一枚。武部義昭・林トシ子・林実八田敏夫・林孝進・林薫・林貞子さんらの顔が見えるはず。

注 光寿会の喜寿祝は暦年計算で行われるので、同級でもいゆる七つ上りの人は翌年のお祝いとなります。

### 秋の一泊旅行収支報告

収入	会費	414.000
	男15.	000*16
		=240.000
	女14.	500*12
		=174.000
	助成金	2.895
	合計	416.895
支出	旅行社	389.048
	林酒店	27.847
	合計	416.895
差引		0

### 12月行事予定

★	1日	定例役員会
★	8日	忘年会
★	9日	友愛弁当配布
★	19日	らんじよ浮世亭

## いかるぎ 木 鴉

お隣新潟県は新発田の生まれ、戊申戦争、西南戦争、日清戦争、日露戦争の各戦争で大量に銃器を売り捌いて大儲けをし、一代で財閥を築き上げた大倉喜八郎という男がいました。人を殺す戦争でポロもうけをしたことから、彼は「死の商人」と言われました。

今防衛省がらみで問題になっている山田洋行、日本ミライズのように武器、兵器を売り捌いて金儲けをする商社も、言ってみれば大倉と同じような「死の商人」にほかなりません。その彼らが武器・兵器の仕入れ価格に二割から五割もの水増しをして荒稼ぎをしていたようです。その代金はもちろん私たち国民の血税です。不正に稼いだ金は防衛省の高官や防衛庁長官らに対する信じられないほどの接待づけに使われました。国民の命を守る国防という大事を食い物にする行為は絶対に許せませんが、さりとてしがない年金生活の高齢者にはあがらうすべもなく、ただただ切歯扼腕するのみです。

## ご案内 忘年会

日時 十二月八日 午前十時

参加費千五百円 於いかるぎ館

喜寿祝い・ビデオ上映・余興など  
多数の会員の参加をお待ちしています

喜寿祝招待者御芳名

林 芳子様	坂 東	武部 義昭様	川 原
林 孝進様	善 導	八田 文雄様	公文名
林 実様	公文名	永森 全子様	公文名
林トシ子様	公文名	高畠せつ子様	公文名